

第4回「明日の京都」ビジョン懇話会

テーマ：「学ぶ」

- 論点1：「学校」で何を学ぶのか？（価値観 ）
- 論点2：「家庭」で何を学ぶのか？（価値観 ）
- 論点3：「社会・地域」で何を学ぶのか？（価値観 ）

【論点 1】 「学校」で何を学ぶのか？

資料 学力を取り巻く状況について

- 世界の中で、日本の子どもの学力レベルは上位グループだが順位は下降（表1 - ）
- 最新の国際的調査結果では、平均得点はすべて前回以上で、上位を維持（表1 - ）
- 知識に関する力より、活用に関する力に課題（図1 - ）
- 科学への興味・関心はOECD諸国の平均以下（図1 - ）

資料 学校教育の現状について

- 国際的にみて平均学級規模は大きく、授業時間は少なめ（図1 - ）
- 暴力行為、不登校など児童・生徒の問題行動が増加傾向（図1 - ）
- 保護者への対応が増えたと感じる教員が増加（図1 - ）
- 世界の中で評価の低い日本の大学（表1 - ）
- 日本の大学生の学力低下（図1 - ）
- 学力世界一になったフィンランドの教育（図1 - ）

ご意見をいただきたいこと

どのような力を、どのように身につけることが、重要だとお考えですか？

また、そのためには、どんなことをしていかなければならないとお考えですか？

表1 - OECD生徒の学習到達度調査結果(PISA2006)

PISA2006 TOP15 はOECD非加盟国・地域

順位	科学的リテラシー	得点	読解力	得点	数学的リテラシー	得点
1	フィンランド	563	韓国	556	台湾	549
2	香港	542	フィンランド	547	フィンランド	548
3	カナダ	534	香港	536	香港	547
4	台湾	532	カナダ	527	韓国	547
5	エストニア	531	ニュージーランド	521	オランダ	531
6	日本	531	アイルランド	517	スイス	530
7	ニュージーランド	530	オーストラリア	513	カナダ	527
8	オーストラリア	527	リヒテンシュタイン	510	マカオ	525
9	オランダ	525	ポーランド	508	リヒテンシュタイン	525
10	リヒテンシュタイン	522	スウェーデン	507	日本	523
11	韓国	522	オランダ	507	ニュージーランド	522
12	スロベニア	519	ベルギー	501	ベルギー	520
13	ドイツ	516	エストニア	501	オーストラリア	520
14	イギリス	515	スイス	499	エストニア	515
15	チェコ	513	日本	498	デンマーク	513
OECD平均点		500		492		498

日本の順位推移

	2000年	2003年	2006年
科学的リテラシー	2位	2位	6位
読解力	8位	14位	15位
数学的リテラシー	1位	6位	10位

出典:「OECD生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment(PISA) ~2006年調査国際結果の要約~」

表1 - 算数・数学及び理科の到達度に関する国際調査結果

【教科別の結果】(平均得点:全生徒の平均得点を500点、全生徒の3分の2が400点から600点に入るように標準化した各国の得点)

○小学校	2007年調査結果(36カ国)	前回(2003年)の調査結果(25カ国)
算数	568点 (4位)	565点 (3位)
理科	548点 (4位) 3位の香港と有意差なし	543点 (3位)
○中学校	2007年調査結果(48カ国)	前回(2003年)の調査結果(46カ国)
数学	570点 (5位) 4位の香港と有意差なし	570点 (5位)
理科	554点 (3位) 2位の台湾と有意差なし	552点 (6位)

(※ただし、2007年調査結果はいずれの教科も平均得点はすべて前回以上であるが、統計上の誤差を考慮すると前回と同程度となる。)

出典:「IEA国際数学・理科教育動向調査の2007年調査(TIMSS2007)」

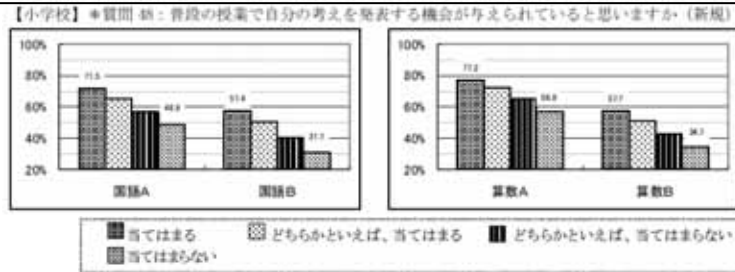
図1 - 全国学力調査結果(平成20年度)

知識・技能の定着に一部課題が見られ、知識・技能を活用する力に課題が見られる。

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		算数	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	11.8問 / 18問	6.1問 / 12問	13.7問 / 19問	6.7問 / 13問	25.2問 / 34問	6.2問 / 10問	23.0問 / 36問	7.5問 / 15問
平均 正答率	65.6%	50.7%	72.3%	51.8%	74.1%	61.6%	63.9%	50.0%

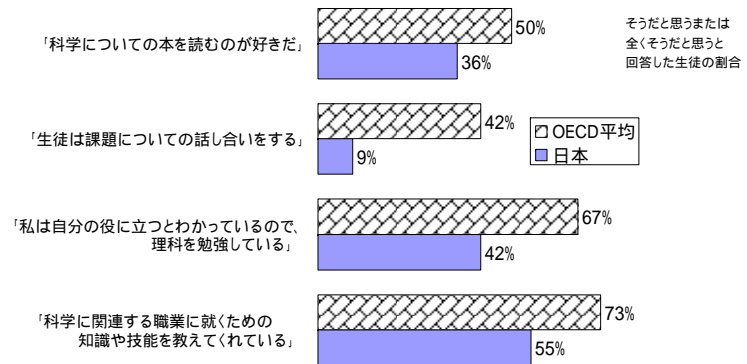
(A問題:知識を問う問題、B問題:活用する力を問う問題)

授業で自分の考えを発表する機会があると思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。



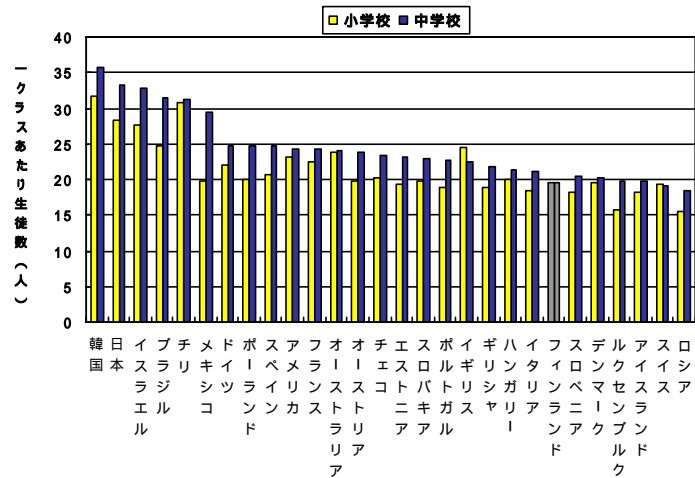
出典:「平成20年度 全国学力・学習状況調査 報告書のポイント」(文部科学省他)

図1 - OECD生徒の質問紙調査の結果より(PISA2006)



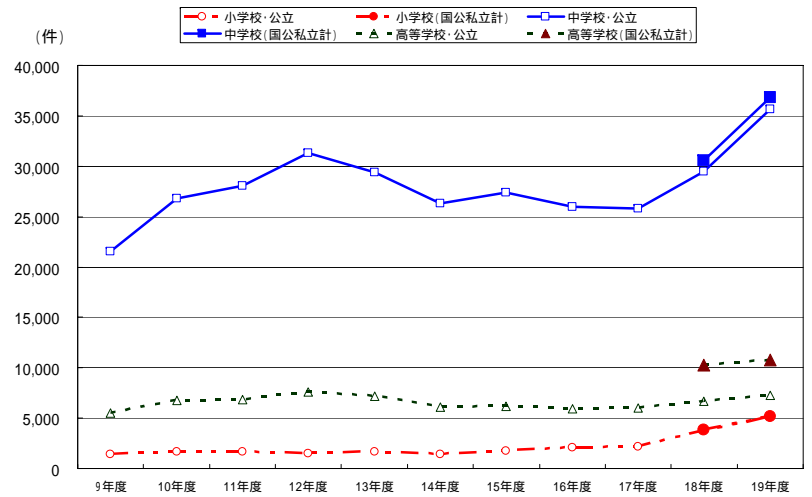
(出典:「PISA調査のアンケート項目による中3調査集計結果(速報)」(平成20年6月) 国立教育政策研究所に基づき作成)

図1 - -1 平均学級規模 (小学校、中学校)



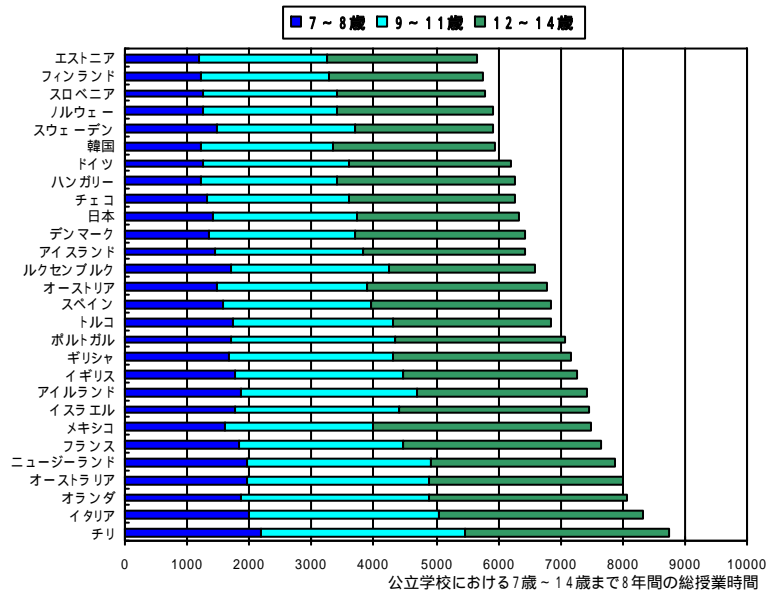
出典:「Education at a Glance 2008」(OECD)より作成
 フィンランドは、小中学校(9年間)平均生徒数~フィンランド文部省発表(2008.12.8)~
 「Visit Finland (フィンランド大使館 商務部)HP」

図1 - -1 暴力行為発生件数の推移



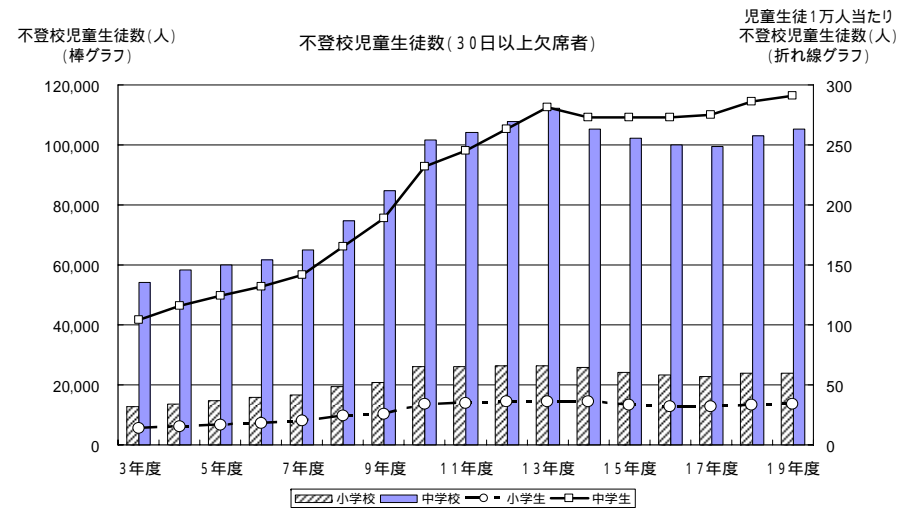
国立、私立学校は平成18年度から調査対象
 出典:平成19年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)

図1 - -2 授業時間 (小学校~中学校)



出典:「Education at a Glance 2008」(OECD)より作成

図1 - -2 不登校児童生徒の推移



調査対象:国公立小・中学校
 出典:平成19年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)

図1 - 教員の保護者や地域住民への対応

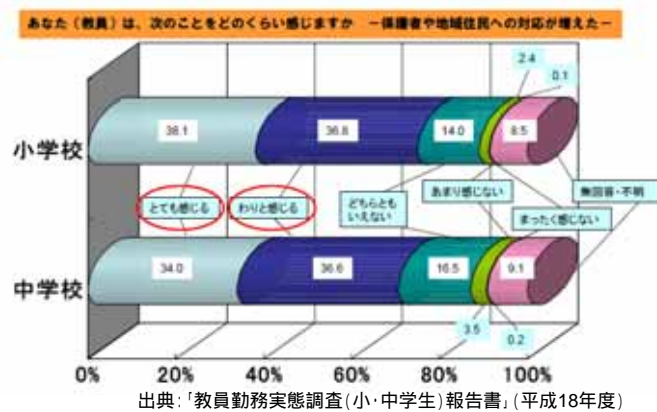


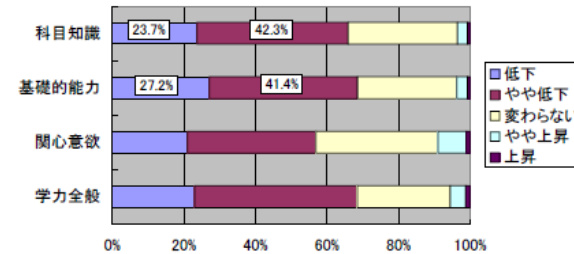
表1 - 世界大学ランキング

2008	2007	2006	大学名	国名
1	1	1	ハーバード大学	アメリカ
2	2	4	イエール大学	アメリカ
3	2	2	ケンブリッジ大学	イギリス
4	2	3	オックスフォード大学	イギリス
5	7	7	カリフォルニア工科大学	アメリカ
6	5	9	インペリアル・カレッジ・ロンドン	イギリス
7	9	25	ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン	イギリス
8	7	11	シカゴ大学	アメリカ
9	10	4	マサチューセッツ工科大学	アメリカ
10	11	12	コロンビア大学	アメリカ
11	14	26	ペンシルバニア大学	アメリカ
12	6	10	プリンストン大学	アメリカ
13	13	13	デューク大学	アメリカ
13	15	23	ジョンズ・ホプキンス大学	アメリカ
15	20	15	コーネル大学	アメリカ
16	16	16	オーストラリア国立大学	オーストラリア
17	19	6	スタンフォード大学	アメリカ
18	38	29	ミシガン大学	アメリカ
19	17	19	東京大学	日本
20	12	21	マギル大学	カナダ
...
25	25	29	京都大学	日本
44	46	70	大阪大学	日本
61	90	118	東京工業大学	日本
112	102	168	東北大学	日本
120	112	128	名古屋大学	日本
158	136	128	九州大学	日本
174	151	133	北海道大学	日本
180	180	158	早稲田大学	日本
199	197	181	神戸大学	日本
214	161	120	慶応大学	日本

出典：「QS Top Universities - Official home of the THE - QS World University Rankings」により作成

図1 - 最近の大学生に対する先生の評価

先生の所属されている学部・学科の新入の学力は、ここ数年どのような傾向にありますか。



【調査概要】2003年12月から2004年1月にかけて全国国公私立408大学・600学部の教員約25,000名を対象にアンケート調査を実施。回収数は11,481名
 (出典)日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「大学生の学習意欲と学力低下に関する実証的研究(研究代表者:柳井晴夫)」(2006)

出典：「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(平成20年12月24日中央教育審議会)資料

図1 - フィンランドの教育制度

● フィンランドがPISAで成功を収めた背景

- (1) 居住地、性別等に関わらず、誰もが同一の教育を受ける機会が与えられている。男女間で別々の教育を行うことはなく、女子校や男子校というものは存在しない。
- (2) 基礎教育課程では経費は全く無料になっている。(無料となる経費には、授業料、教科書・資料代、給食費、健康管理費、歯科治療費、送迎費が含まれている。)
- (3) 学校システムを向上させるため、他の行政機関、学校等と協同する。また、学校当局は、様々な協会や、教員、宗教団体との間に、協同関係を持つことが頻繁にある。
- (4) 教員になるためには、修士号の学位と、教育実習を含む初級教員訓練を終了していることが必要である。教員という職業は、大変尊敬されており、また、人気がある。
- (5) 教育の成果を調べる全国的なテストは存在しない。成績や成果が、生徒間や学校間で比較されることはない。国による教育成果の評価は、標準調査によるものである。
- (6) 「基礎教育法令」と「基礎教育のための国家重点カリキュラム」に基づいて策定される目標に沿って、教育指針が定まる。地方政府(市町村)が、教育を提供する責任を負う。

出典：「フィンランド国家教育委員会HP - Background for Finnish PISA success」

【論点 2】 「家庭」で何を学ぶのか？

資料 家庭での子どもの過ごし方について

- 外国に比べて、テレビやビデオを見る時間が長い日本の児童・生徒（図2 - ）
- 携帯電話でつながる友人関係。遅い就寝時間（図2 - ）
- 最近の世の中の出来事について考え方に強い影響を与えているものはテレビ（図2 - ）

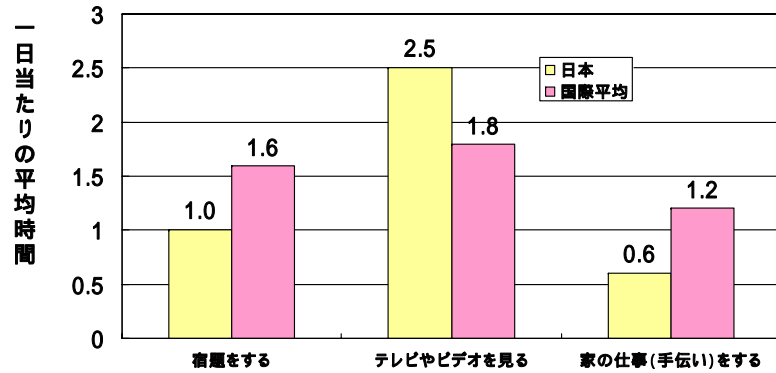
資料 家庭における親子等の関係について

- 兄弟姉妹の数が減少、親子の接触時間も減少傾向（図2 - ）
- 父親は子どもとの時間不足、母親は子育てによる自分の時間不足が最大の悩み（図2 - ）
- 朝食を食べている子どもほど高い学力テストの得点（図2 - ）
- 学校外で身に付けるべきは、「善悪の判断力」「社会生活の常識」「生活習慣」（図2 - ）

ご意見をいただきたいこと

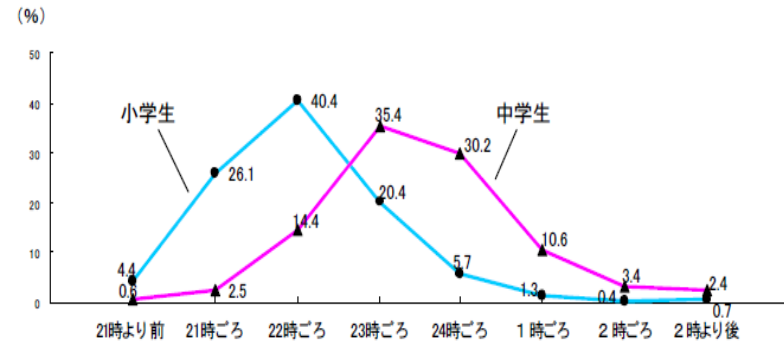
本来、家庭で学ぶべきこととして、何が大切だと思われませんか？
また、そのためには、どんなことをしていかなければならないとお考えですか？

図2 - 学校外での一日の過ごし方



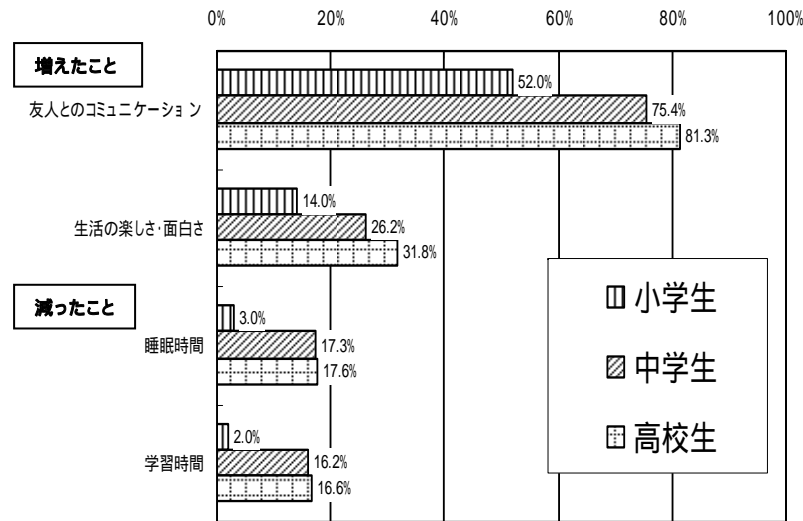
出典：「IEA国際数学・理科教育動向調査の2007年調査(TIMSS2007)」(国立教育政策研究所)

図2 - -2 平日の就寝時間



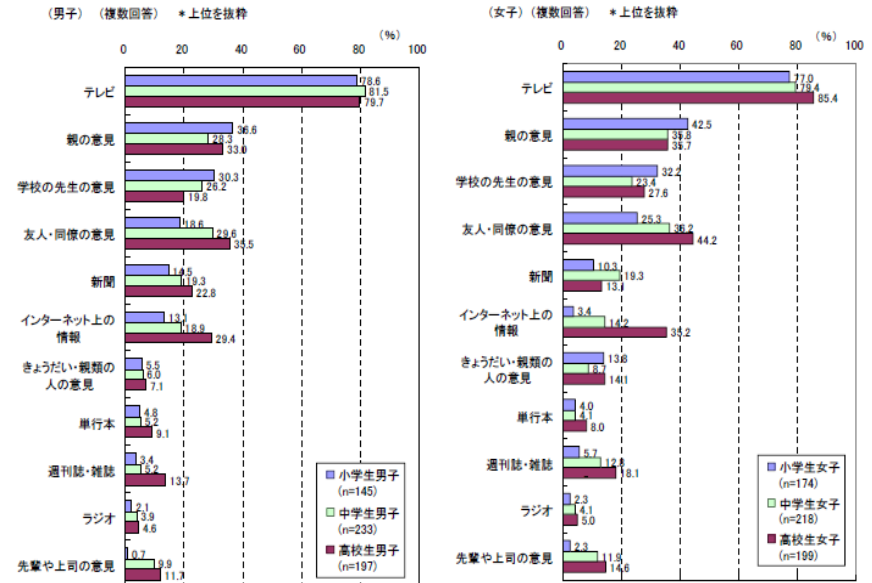
出典「初等中等教育分科会(第56回)・教育課程部会(第4期第15回)合同会議議事録・配付資料」(平成19年11月)

図2 - -1 携帯電話等利用前後の変化 - 小・中・高校生 -



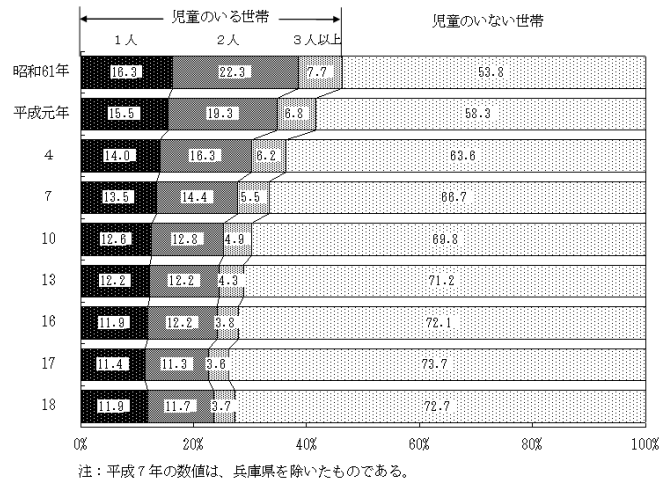
出典「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査について」(平成19年12月、内閣府)

図2 - 最近の世の中の出来事について考え方に強い影響を与えているもの



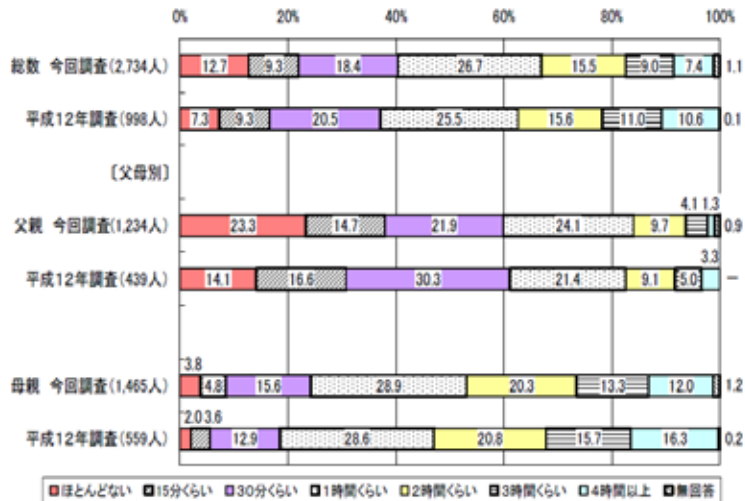
出典「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査について」(平成19年12月、内閣府)

図2 - -1 世帯数の構成割合の年次推移



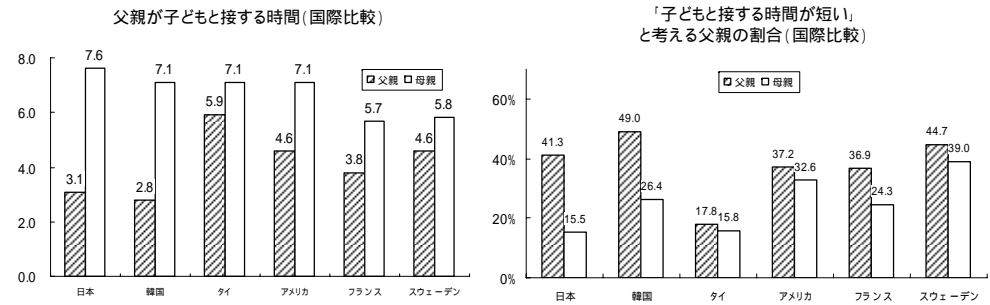
出典：「平成18年度国民生活基礎調査」(厚生労働省)

図2 - -2 家庭での親子のつながりの現状



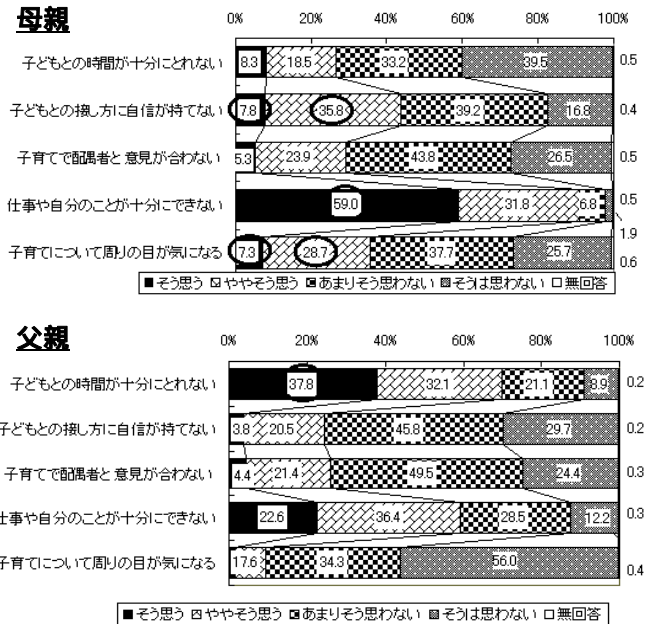
出典：「低年齢少年の生活と意識に関する調査」の結果について(平成19年3月)(内閣府)

図2 - -3 父親が子どもと接する時間(国際比較)



出典：(独)国立女性教育会館「家庭教育に関する国際比較調査報告書」(平成16年度・17年度)

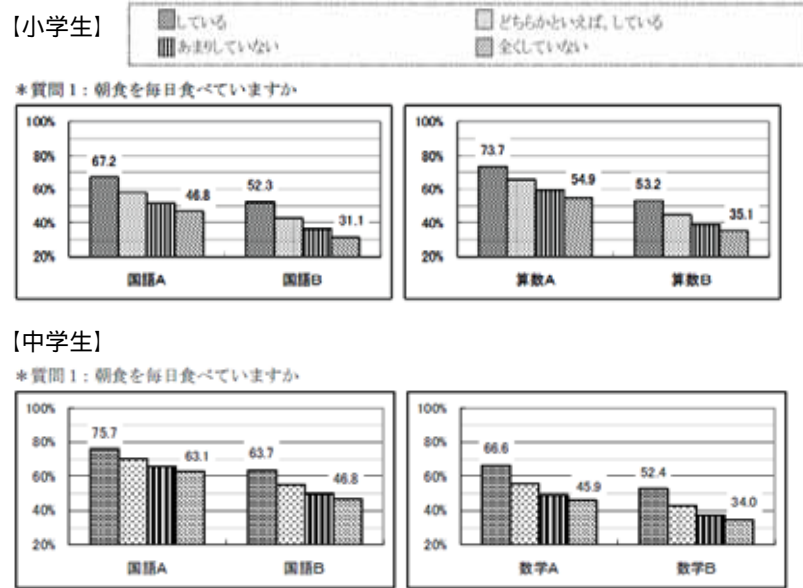
図2 - 子育ての不安や悩み



出典：「子育て支援策等に関する調査研究(報告書概要版)」(平成19年3月)(厚生労働省)

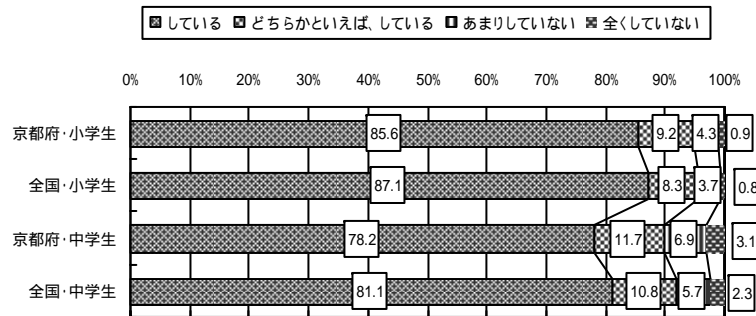
図2 - -1 朝食を食べている子どものテストの成績

朝食を毎日食べる児童、生徒の方が、全国学力テストの正答率が高い傾向が見られる。



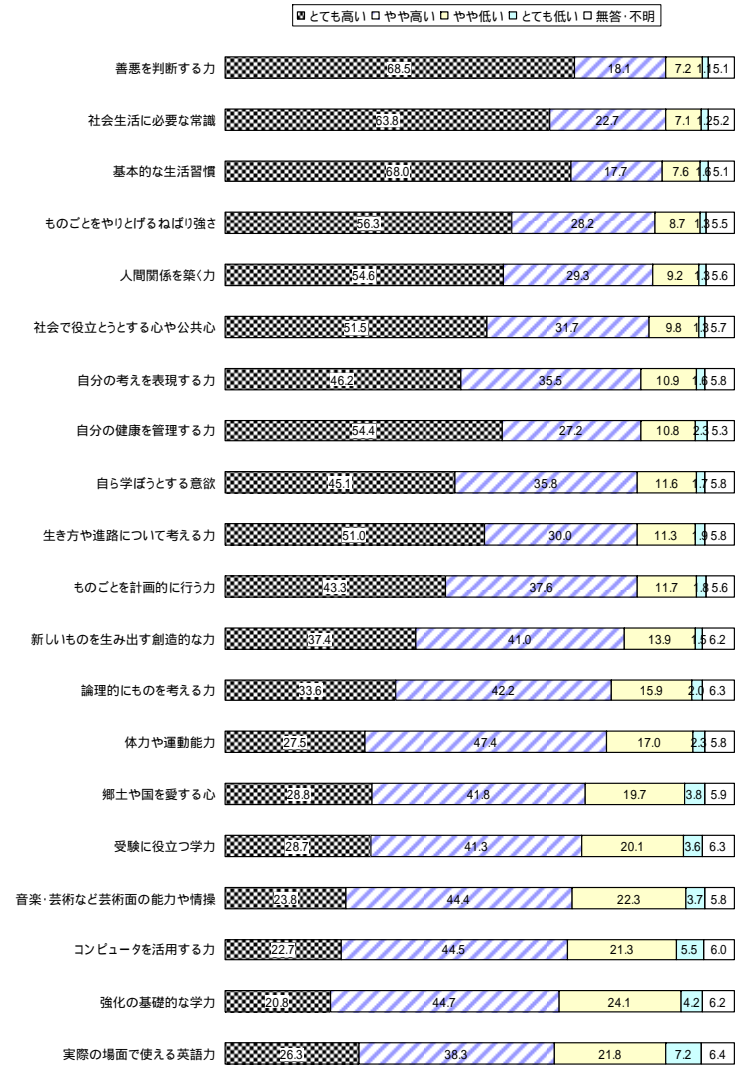
出典：「平成20年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省)

図2 - -2 朝食を食べている子ども (京都府)



出典：「平成20年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省)

図2 - 学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度 (小学生保護者)



出典「義務教育に関する意識調査 中間報告書」(平成17年6月、文部科学省)

【論点 3】 「社会・地域」で何を学ぶのか？

資料 バーチャル社会化とモラルの低下について

- 自然に触れる機会など体験を行う機会が減少し、道徳観・正義感に影響（図3 - ）
- バーチャルな社会がもたらす問題（図3 - ）
- 基本的人権についての理解が低下（図3 - ）
- 社会の風潮として、モラルの低下や子どもへの無関心が問題（図3 - ）

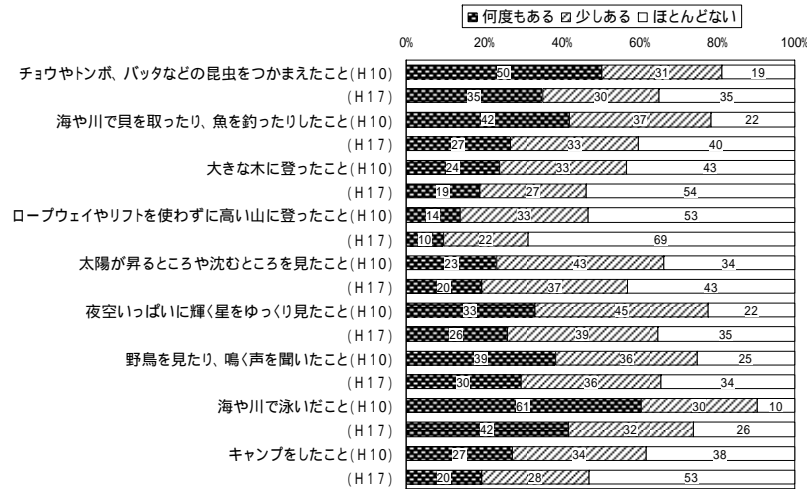
資料 「学び」に対する人々のニーズと京都の教材

- 心の豊かさ重視が、ものの豊かさ重視の倍（図3 - ）
- してみたい生涯学習は実体験志向（図3 - ）
- 精神的なものを求める京都への来訪者（図3 - ）
- 京都に残る地域・生活の知恵（図3 - ）

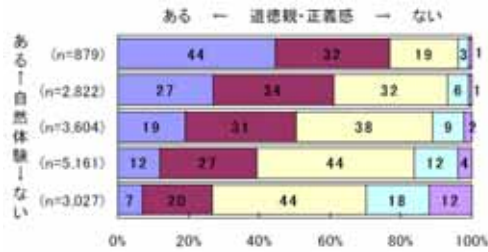
ご意見をいただきたいこと

これからの学びに、地域が果たす役割を、どのようにお考えですか？
これからの学びに、京都が果たす役割を、どのようにお考えですか？
また、そのためには、どんなことをしていかなければならないとお考えですか？

図3 - 自然体験活動などの実体験



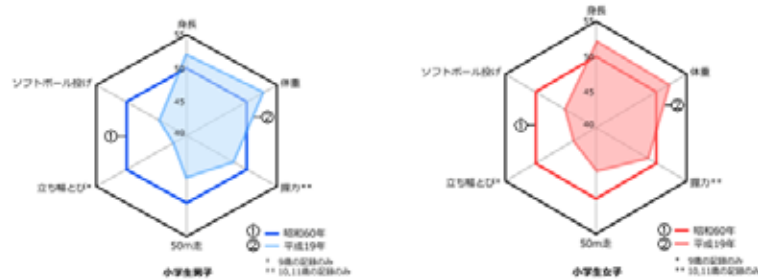
自然体験と道徳観・正義感の関係



出典：「平成17年度青少年の自然体験活動等に関する実態調査報告」(国立オリンピック記念青少年総合センター)

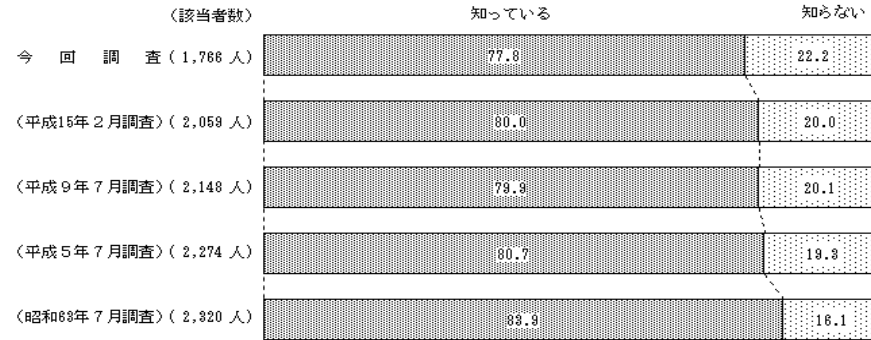
表3 - バーチャルな社会がもたらす問題

外で運動しなくなった小学生の体力の低下



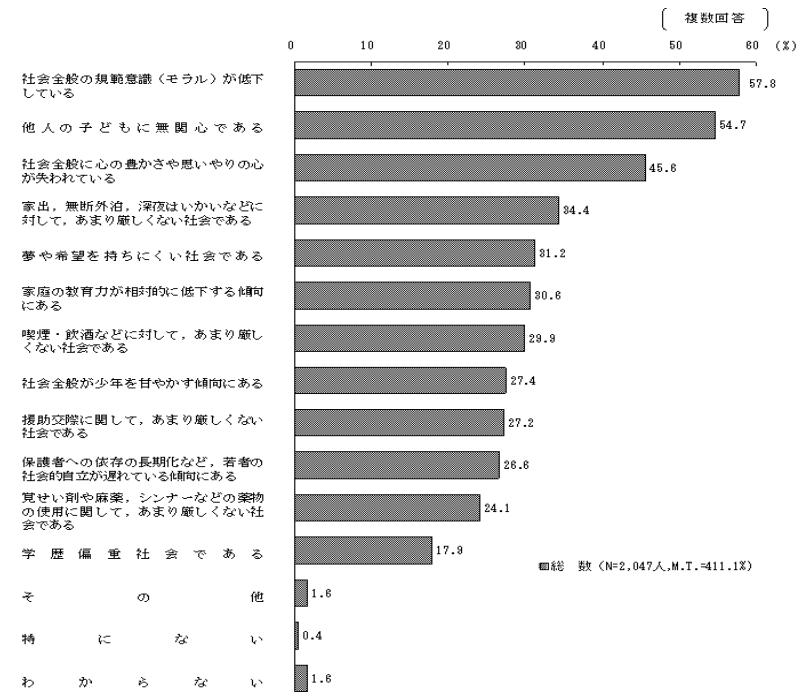
出典：「平成19年度体力・運動能力調査報告書」(文部科学省)

図3 - 基本的人権についての周知度



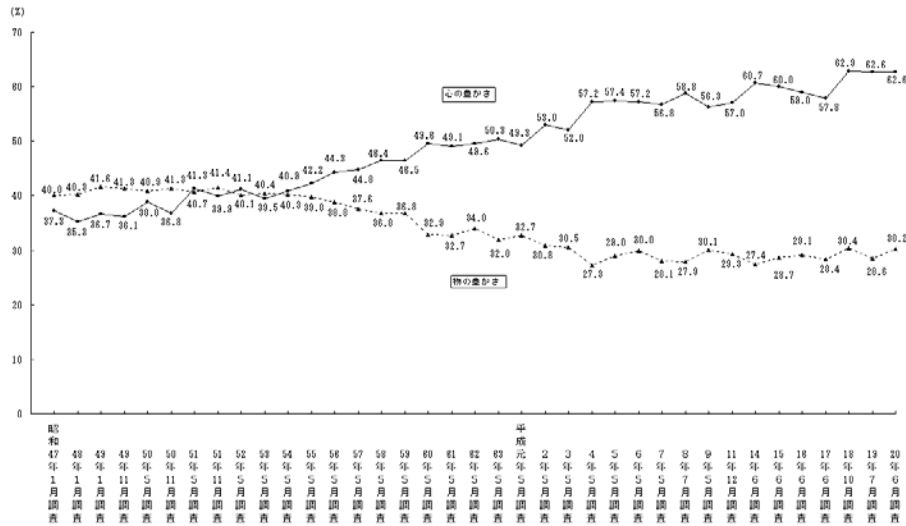
出典「人権擁護に関する世論調査」(平成19年6月調査)(内閣府)

図3 - 社会風潮の問題点



出典：「少年非行等に関する世論調査」(平成17年1月調査)(内閣府)

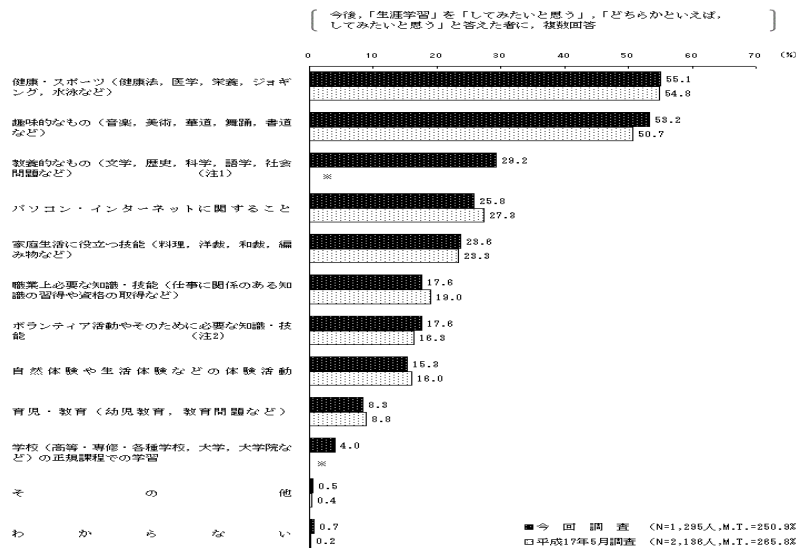
図3 - 心の豊かさか、物の豊かさか



(注) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさをゆとりのある生活をするに重きを置きたい」
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きを置きたい」

出典：「国民生活に関する世論調査」（平成20年6月調査）（内閣府）

図3 - してみたい生涯学習

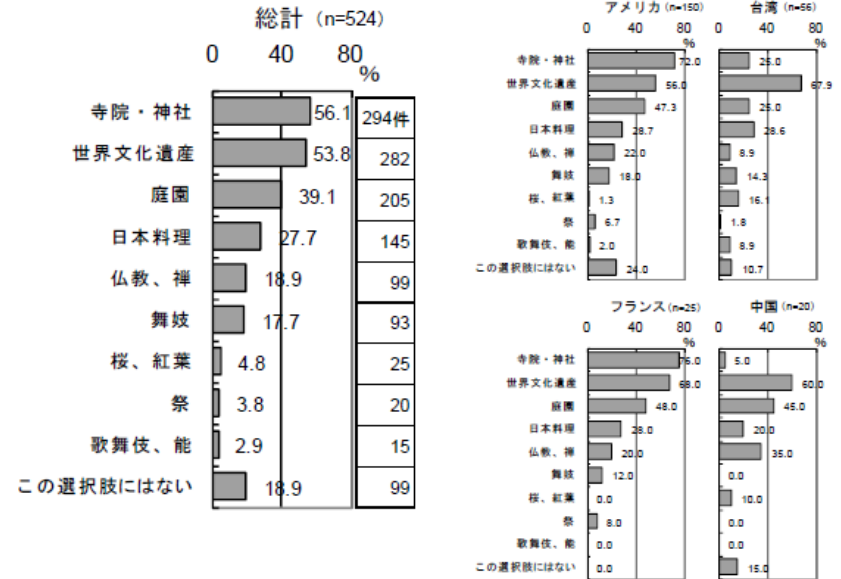


〔 今後、「生涯学習」を「してみたいと思う」、「どちらかといえば、してみたいと思う」と答えた者に、複数回答 〕

＜注1＞平成17年5月調査では、「教養的なもの（文学、歴史、科学など）」＜21.9%＞、「社会問題（社会・時事問題、国際問題、環境問題など）」＜13.1%＞、「語学（英会話など）」＜11.4%＞となっている。
＜注2＞平成17年5月調査では、「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能（点訳、手話、介護など）」となっている。

出典：「生涯学習に関する世論調査」（平成20年5月調査）（内閣府）

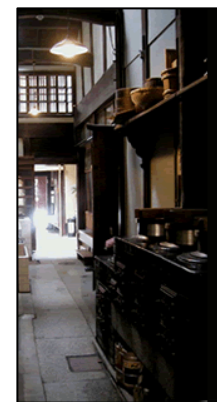
図3 - 京都の来訪動機



出典：「京都市外国人観光客動向・意識調査報告書」（平成20年2月、京都市産業観光局）

図3 - 京都に残る生活の知恵

京町家



出典：「京都市伝統産業振興館HP」

門掃き 打ち水
振り売り